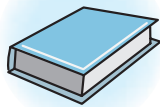


人権教育  
ともに生きる 123  
親子の絆

家族の一員として、13年間可愛がっていた、我が家の愛犬「クロ」が、3月に亡くなりました。悲しみで、心の中にポツカリと穴が空いたようです。ペットの死でも心が痛むのに、最近の事件には驚くばかりです。信じられないようなニュースが、毎日報道されています。たとえば、子どもが親の命を奪ったり、親が子どもの命を奪うということです。また、子どもを虐待する親も増加しているようです。このようなことは、決してあってはならないことです。一体全体、日本の社会はどうなっているの

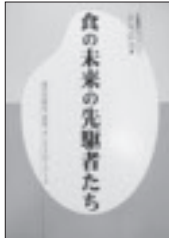
でしょうか。親子の絆が崩れかけているような気がします。物は豊かになつた反面、哀れむ心、慈しむ心を忘れていくように思えます。日本人の心が、どこかへ行ってしまうのではないのでしょうか。親子の絆がしっかりしていれば、行動を起こす前に踏みとどまる気持ちが出るかもしれません。豊かな心を育てるのは家庭です。親子で話をしたり、一緒に食事をするというあたりまえのことが、あたりまえでない世の中になつてはいけないと思います。みなさん、いま一度自分の家庭を見つめ直してみてはいかがでしょうか。野田陽子



図書館へ出かけよう。

【休館日】 7 / 2 (月) 9 (月) 16 (月) 23 (月) 30 (月) 7・8月の31日は開館します

話題の新刊 おすすめの本



食の未来の先駆者たち

金丸 弘美作

食育、地産地消など、よく話題にのぼる食に関する言葉。食べるという人間の根源的なものを見直すことで、環境に配慮しつつ地域の活性化につなげている各地の事例を説明。作者は、唐津市出身。

ふたり★おなじ星のうえて 谷川俊太郎 作

国や言葉は違うけれど、同じ地球に住んでいるインドの9歳の少女と日本の9歳の少女。ふたりを結ぶものは何でしょう？今、他の国で何が起きているのかを改めて考えさせられる本。



森のいのち

小寺 卓矢作

深い森の奥。長い歳月を経て朽ちて倒れた木には、キノコや小さな虫たちが生きている。終わる命が次の新しい命へとつながっていくことの大切さを、美しい写真が語りかけてくる。

新着図書を紹介

- ◆ 円朝芝居噺夫婦幽霊 (辻原 登)
- ◆ 陪審法廷 (楡 周平)
- ◆ 老醜の記 (勝目 梓)
- ◆ 前巷説百物語 (京極 夏彦)
- ◆ 謎のマンガ家・酒井七馬伝 (中野 晴行)
- ◆ おじいちゃんは水のにおいがした (今森 光彦)
- ◆ 南極コレクション (武田 剛)
- ◆ トモ、ぼくは元気です (香坂 直)
- ◆ いしぶたくん (あきやま ただし)
- ◆ こたろう (田島 征彦)

市民文芸

《麦の芽短歌会 多久麦の芽互選》

亡き母の着物を解けばカラカラと  
心の映写機巻き戻りゆく  
川浪 信子  
「会いたいね」友との便り繰り返して  
古い過ぎし今過客とならむ  
田淵ミチ子  
ささやかな老いの生活日々なれど  
時折何かを変へたき思ひ  
本村 則子  
減ればとて増ゆることなきクラス会  
またねと別る傘寿の友よ  
内田 龍子  
田の麦を黄金に染める風吹きて  
波打つ様を飽きもせず見る  
本田 静香

《あざみ俳句会 あざみ俳句会互選》

潮風や岬に香る花みかん 千々岩弘幸  
牡丹の傘を貫ひし空模様 田中 惇子  
山々の緑重なる若葉かな 武田 律子  
佐賀平野見渡す限り麦の秋 田中久美子  
雛の手に新茶眩しくも採み上がる 中嶋 清子

《多久川柳会 林口岳生選》

葉袋しかとたししかめ花の旅 田代 弘子  
虚々実々捕らぬ狸の栗集め 富安 正喜  
ガイドから言われなければ只の梅 大谷 和子  
子の躰甘味過剰で苦味なし 猪ノ口昭子  
シュレッター僕の失敗食べている 田代まつこ